

(3回目の)プラネタリウム投影デビュー

新人学芸員恒例のプラネタリウム投影デビュー記事、今回はタイトルがなんだか妙ななあと思われたかもしれません。

実は、私は大阪市立科学館に来る前に、8年ほどプラネタリウムのある博物館と施設に勤めていました。数字だけ見るとそれなりに経験があるように思われるのですが、リニューアルによる閉館・自然災害・新型コロナウイルスの流行…とキャリアの半分は投影をしてない期間があるのです。しかも特に指導を受けてきたわけではないので、自己流で投影をしてきました。

そんな私が科学館の大先輩たちと肩を並べて投影することになるのです。とにかく心機一転、新人として先輩方の投影をしっかり見て学び、いただいたアドバイスに真摯に向き合うぞ！という気持ちで3回目の投影デビューに向けて練習を始めました。

「とは言っても全くの素人ではないし…プラネタリウムを動かしたことはあるし…」と甘い考えがなかったと言えは嘘になります。そんな私の前にまず立ちふさがったのは投影機器たち。科学館のプラネタリウム

はこれまでの職場で使い慣れたものとは全く異なるシステムで動いており、まずは様々な機器の使い方から勉強し直すことになりました。更に、下手に経験があるせいで気づかないうちに身につけてしまった良くない癖を指摘されることもしばしば…。前途多難ながらもリニューアル準備と並行して投影練習に励みました。そして7月末日、完璧ではないがあとは習うより慣れよということで大阪市立科学館リニューアルオープン日の8月1日に初投影を行うことが決まりました。

前日の7月31日の夜は緊張で眠れない…ということはなく、リニューアルオープン準備で疲れていたのでぐっすり眠り、デビュー当日の朝を迎えていました。1回目のプラネタリウム投影デビューのときは前日から顔色が悪かったそうですが、こういう部分は図太くなつたなあ和我ながら感心します。

しかし、いざ科学館に出勤すると緊張が止まりません。元々かなりの緊張しいの野村。人生の節目に受けた試験という試験で頭が真っ白になり、手足が震えて信じられないミスを重ねてきた嫌な記憶が蘇ります。落ち着かない気持ちを持て余していたところ、先輩学芸員に「展示室の様子を見てきたら？」とありがたいお言葉をいただけたので、それに甘えて館内を見て回ることにしました。



初投影直前、緊張の面持ち

展示室に向かうと、たくさんのお客さんが目に入ります。こんなに多くの方が開館を待っていてくれたんだと嬉しくなると同時に、自分がお客さんとして科学館に来ていたときに感じた、ワクワクした気持ちを思い出しました。「今日は少しでも、あのとき感じたワクワク感をお客さんに感じてもらえるように頑張ろう！」と気合が入ります。

そして、いよいよやってきた投影開始時刻。大阪の景色が見えたらまずは方位の確認、プラネタリウム定番故に前職場での定型文がつい口をつきそうになりますが堪えて…左手・東の方向に見える山は阿蘇ざ…ではなく生駒山ですね。大阪の空でも見られる明るい星を辿った後は、いよいよ街明かりを消していきます。お客さんの目の前に満天の星が現れたときの囁くような「わぁ…」という歓声は、この大きなドームでもしっかりコンソールに届くんだ…そう感じたときに、機材や投影内容が変わってもやるべきことは「お客さんに星空を楽しんでもらうこと」だと改めて思いました。その後、夢中になって投影をしているうちにあっという間に夜明けがやってきました。緊張で思うように話せなかったこともあり、反省点がたくさんあったのですが、最後にお客さんから拍手をいただいて感謝の気持ちでいっぱいになりました。

そんなこんなで慌ただしくリニューアルオープン初日乗り切った閉館後、ミュージアムショップに人だかりができていました。スタッフがリニューアルオープン日の日付が入った記念メダルを買おうと集まっていたのです。2024年4月に入職した野村・猪口・木村の3人もせっかくなのでプラネタリウム投影・サイエンスショーデビューの記念にメダルを購入しました。退職するときに見返したら「あの頃は若かったな～」なんて思わず呟いてしまいそうな言葉を刻んで。

初投影から早1か月、投影する度に反省点があり…まだまだ修行が足りないと感じる日々です。これからどんなに投影回数を重ねても、2024年8月1日の緊張感、そしてワクワクを忘れないように頑張りたいと思います。



8月1日に購入したコイン

野村 美月(科学館学芸員)